

## ことばの教室 2 言語学習指導案

指導者 山岸美穂

1. 対象児 発音に誤りがある A 児（2年男子）

2. 学習内容について

(1) 児童の実態（別紙個別の指導計画参照）

【入級当初のことばの様子】

- 舌を出すと、先が細くとがる。舌先を上唇に持ち上げることが苦手。
- 正しく発音できない音について、誤った音と正しい音の聞き分けはほぼできている。
- サ行がシャ行、ザ行がジャ行、ツ音がチュ音またはトゥ音に置換している。

【現在のことばの様子】

- 舌を出すと、先端が少しとがる。舌先で上唇を舐めることはできるが、下唇に付けたり、一周したりすることは苦手。舌打ちも、音は出せるが口蓋に吸いつけた状態で維持することはできない。舌小帯を確認しながらの舌打ちもまだできない。舌先を丸くくぼめることはできるが、数秒で元に戻ってしまう。舌の筋力、コントロール性共に未熟である。
- サ行は、歯の間から舌が少しはみ出た状態で発音している。会話中はそれほどでもないが、練習で意識すると舌がはみ出て不安定になる。ザ行も同様。
- ツ音は、単音節、練習中の単語では正しく発音できる。会話中は「ごがちゅ」「ふたちゅ」「じちゅは」など、はっきりとチュ音に置換しているときが多いが、たまに「ごがつ」など正しく言えることもある。誤りを指摘すると、すぐに正しく言い直すことができる。

【通常学級での様子】

- （生活面）朝の支度といった、基本的な身辺整理は一人でできる。教室移動をするときの準備など、一斉の指示を受けたときに自分から進んで動くことはほとんどなく、全般的に取りかかりが遅い。テスト直しにおいて、付せんが三つ付いていたときに、一つだけ直して残りの二つはそのまま提出してしまうなど、注意力にやや欠けるところがある。カラー帽子を家に忘れてしまったときに、机に突っ伏して動かなくなってしまうなど、失敗に敏感で、とても気にしてしまう。
- （学習面）計算は比較的速く正確にできる。ワークテストでも 100 点を取ることができる。漢字テストの正答率は 50 パーセント程度で、形はとらえられるが、折れ、はね、止め、といった細部にまで気を配ることができない。黒板を視写するときも、漢字を使わずひらがなで済ませることがある。
- （社会面）給食係の仕事は、自ら進んで行っている。ことばの教室に通っている児童が学級に二人いて、その子たちとよく一緒に活動している。
- （ことば・発音に関わること）授業中、自ら挙手して発表することはほとんどない。指名されると発表（音読）するが、声は小さい。朝のスピーチなど、事前に準備して練習しておいたものを発表するときは、大きな声で言える。ツ音がチュ音になってしまうこともあるが、内容は伝わる。

<実態の考察>

いろいろな舌の体操が正しくできないことから、舌の筋力、コントロール性共に未熟であると判断し、舌の動きをよくしたり、思い通りに動かせるようにしたりできるような指導を、前期は重点的に

行う。サ行音、ザ行音については一年生のときに一通り指導を受けて改善されてきているが、歯間化の傾向があるので、舌の状態がより良くなってから必要があれば再び指導する。ツ音については、単音節で正しく発音できることもあるので、子音からいねいに指導し、定着を図る。会話中、「ツ」と言えたときもあれば「チュ」になっていることもあったので、自分自身が気付いているか尋ねたところ、「わからない」という答えであった。そこで今後、自分の発音を聞き分ける（自己評価する）ことが必要であるので、聞き分けができたうえで、進んで言い直しができるような支援をしていきたい。自己評価することが、進んで修正したり、自信をもって活動したりする動機づけになればよいと思う。人の話を集中して聞くことも苦手なので、担当者が意図的に誤り音を発して指摘させるなど、必然性をもって人の話を聞く活動も取り入れていく。

できないことがあるとすぐにあきらめたり、失敗をとても気にしたりする傾向があるので、指導中はできていることを必ず取り入れて進める。新しいことに挑戦するときは、できていることをまず行い、スモールステップで進める。正しくできていなくても、少しでも変化があればそれを伝え、認めて褒め、続ける意欲につなげていく。

パターン化されていること、事前に準備しておいたことは進んで行うことができるという実態から、見通しがもてる内容、自信をもってできる内容を工夫する。新しい内容でも、見通しがもてるような進め方をする。また、今現在できなくても、チャレンジしたり、変化させていったりすることができれば良い、という考えをもたせる指導を行う。自信をもたせるために、「できる」「頑張った」という自己評価がたくさんできる機会を設ける。もちろん担当者も褒めるが、達成感や自己肯定感がもてる評価の工夫をしていく。

## (2)指導内容

### 《発語器官のトレーニング》

○安定して正しい発音で話したり、正しい口形で声を出したりするために、口唇、舌、顎などの運動をする。

### 《誤り音の正しい習得》

○サ行音、ザ行音、ツ音を正しく発音できるように、音作り、単音節、無意味音節、単語、短い句、長い句、文、会話と、順に学習を進めていく。

○無声音 s、t s が出たら、10回以上連続で出せるようになってから次のステップに入るなど、一つ一つ定着を図ってから次に進むようにする。無声音が定着したら、無声音に続けて母音を発音する (ts・u → tsu)。それがいつも連続でできるようになったら、無声音と母音をつなげて「ツ」の音を作る。

### 《わかりやすく話す・正しく聞く》

○毎時間その日のテーマを決めて、自由に話す機会を設ける。自分でテーマを決められない場合には、習い事や学年の行事、季節の行事について担当者が質問し、よりたくさん話せそうな事柄を選ばせる。いつ、どこで、だれが、だれと、なにを、どうした、という文の骨組み（内容）をはっきりさせて話す。また、質問に的確に答えるなど、相手の話を正しく聞く。

## (3)めざす子どもの姿

- ・サ行音、ザ行音、ツ音の発音の仕方を理解して正しく発音することができる子。〈正確に発音する〉
- ・自分が発音した音を聞き、誤りを正すことができる子。〈聞く〉

- ・相手が聞き取りやすいように、口をしっかりと開けてはっきりと話したり、音読したりすることができる子。〈読む・話す〉
- ・人の話を最後まで聞き、円滑なコミュニケーションをとることができる子。〈関心・態度〉

### 3. 学習の目標

- ①ツ音の発音の仕方を理解して正しく発音することができる。〈正確に発音する〉
- ②担当者、及び自分の発音の正誤を聞き分けることができる。〈聞く〉
- ③口形をはっきりさせて、わかりやすい速さで読んだり話したりすることができる。〈読む・話す〉
- ④会話を楽しむことができる。〈関心・態度〉

### 4. 指導計画（前期 週1回）

指導期間を通して行う内容		段階を追って進める内容	その他
耳の訓練	発話器官の訓練	構音指導	
○誤り音の弁別 以下の音を、単音節、単語、文中で聞き分ける ・サ音とシャ音 ・ス音とシュ音 ・セ音とシェ音 ・ソ音とショ音 ・ツ音とチュ音 ※いずれの音についても、初めは担当者の発音を弁別する。本人が正しい音で発音できるようになったら、自分の発音で弁別する。	○口の体操 ・口形に気をつけて母音の練習 ・口を大きく開けたり動かしたりする練習 ○舌の体操 ・舌の筋力を高める ・舌の動きをよくする ・パタカの発音練習 など ※上記の練習を、回数や時間を必要に応じて決めて、毎時間行う。	○ツの音作り ・子音 s の練習 ・子音 t の練習 ・子音 ts の練習 ・ts と u を続ける練習 ○ツ音の練習 ・ツの単音節練習 ・ツの単語練習 ・ツの短文練習 ・ツを文章の中で気を付けて読む。 ・ツを会話の中で気を付けて発音する。	○毎時間、話題を決めて自由に話す。担当者の質問に答えるなど、「会話」を重視し、相手の話を聞く姿勢を身に付けられるようにする。 ○すでにできている課題も、学習意欲を維持させるために、取り入れる。

### 5. 重点的に取り組む内容

○全体に関わるもの ◎本時の重点

〈自己評価の機会の充実〉

言葉で褒めると同時に、がんばったことやできたことを目に見える形で残し、次への意欲につながるようにする。ことばの指導は、児童が自己評価し、自ら修正していくことが最終目的なので、児童自身が判断基準を培っていけるような評価・支援を工夫する。

○自己評価を助け、児童も保護者も今現在どこまで学習が進んでいるのかわかり、意欲につなげるための手立てとして、学習内容が表になったプリントを用意する。(別紙2参照)

○始めと終わりの号令(あいさつ) がんばりカードを用意し、姿勢よく聞きやすい声で言えたらシールを貼っていく。サ行音、ザ行音、ツ音が入っているので、毎時間の評価の一つにもなる。

○発音練習や舌の体操においては、児童の活動や反応一つ一つに評価の言葉をかける。正誤の判断を毎回することで、児童の中に基準をつくっていく。

◎鏡やテープレコーダーを使い、目標とする舌の形や発音と比べてどうであるか、担当者の評価とともに

に、自己評価する機会を取り入れる。

◎必然性をもって自身の発音を意識(評価)させるため、児童自身が「さかさまことばクイズ」や「〇×ゲーム」の出題者になる機会を設ける。

○毎回最後に今日の学習を振り返り、「今日のいちばん」を児童が一つ選び、ノートにごほうびシールを貼る。よくできたこと、あるいは、うまくできなくても一生懸命がんばったことを選ぶ。とくに疲れたことや大変だと思ったことは、それだけ集中してがんばった内容なので、積極的に「今日のいちばん」として選ぶよう声をかけていく。選んだ理由を具体的に言わせて、次につながるよう、良いこととして意識付けしていく。

## 6. 本時の指導

### (1)目標

- ①自分が発音した誤り音に気付いて、自発的に正しく言い直すことができる。〈聞く・自己評価〉
- ②自分の発音や舌の動き、がんばりに注目し、適切に評価することができる。〈自己評価〉
- ③ツ音とチュ音を正しく言い分けることができる。〈発音〉
- ④場に合った声の大きさを、会話を楽しむことができる。〈話す・表現〉

### (2)展開

(資料や道具は**太字イタリック体**で記載してあります。)

時 配	学習内容と活動	教師の指導・支援
		評価【評価方法】
0	1 始めのあいさつをする。 「 <u>し</u> せいをよく <u>しま</u> しよう。これから、ことばのきょう <u>しつ</u> をはじめ <u>ます</u> 。れい。おねがい <u>します</u> 。」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞きやすい声の大きさを言えたら褒める。</li> <li>・<u>し</u>の音、特にツ音が正しく言えたら褒める。</li> <li>・姿勢よく号令をかけ、礼の後、目を合わせて止まったら、<b>がんばりカード</b>にシールを貼る。</li> </ul>
1	2 学習内容を知る。 今日の日付を、 <b>ホワイトボード</b> を見てノートに書き写す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスに合った大きさである、払いがきれいなど良い点を見つけて褒める。</li> </ul>
3	3 話題を決めて自由に話す。 楽しみにしていることや、過去のできごとを、進んで話したり質問に答えたりして、会話を楽しむ。 〈話題の例〉 ○土日にあったこと ○誕生日のこと ○給食のこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊張感を解いて声が出しやすい雰囲気になるよう、子どもの話を引き出す。同時に、前時までのサ・ザ行音の定着具合や、ツ音の変化を聞き取る。誤り音の訂正は特に行わない。</li> <li>・授業開始前日までに、話したいことを考えておくように伝えておく。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">相手の話も聞きながら、話すことができたか。④【表現】</div>
	ツ音を正しく使ってゲームやクイズを楽しもう	
8	4 口と舌の体操をする。 (1)口の体操	

10	<p>・大きく口を開けて閉じる・下顎を左右に動かす・唇を尖らせたり横に引いたりする・頬をふくらませたりへこませたりする</p> <p>(2)舌の体操</p> <p>口角に付ける・舌先を上唇に付ける・舌先を丸める・舌を平らにする・舌打ちをする・カ、タ、パタカの発声などを、<b>カード</b>を引いて行う。</p>	<p>・口や舌をよく動かすための準備体操として、<b>鏡</b>を見ながら、自信をもってできる口の体操を先に行う。</p> <p>・比較的うまくできる体操をはじめに行い、少しずつ難しい体操へと進める。良い形になったり、少しでも変化が見られたときは具体的に話したり、絵に描いたりして知らせ、児童にも確認させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>意識して口や舌を大きく動かすことができたか。②【発音】</p> </div>
13	<p>5 「ツ音」の練習。</p> <p><b>ステップアップカード</b>を見て、今日の課題(語尾に付く単語が正しく言える。)を確認する。</p> <p>(1)子音、単音節を先に 10 回程度発音する。</p> <p>次に、<b>プリント</b>に書かれた「ツ」の入った単語を、場に合った声の大きさと正しく読む。途切れた場合と言い誤りは、正しく言えるまで繰り返す。全ての単語を正しく言えたら、<b>ステップアップカード</b>にできた印と月日を記入する。</p>	<p>・5(1)から(3)の活動中は、正しい発音を意識できるように、ツ音、サ行音、ザ行音について言い直しができたときには<b>ノート</b>に<b>シール</b>を貼り、認めることを伝えておく。</p> <p>・舌の動きを慣らし、児童が安心して進められるよう、できている課題からスタートする。</p> <p>・一つずつ、評価の言葉をかける。言い誤った場合も、自分から言い直しができたらよいことを先に伝えておき、<b>ノート</b>に<b>シール</b>を貼って目に見える形で評価する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>単語の中でツの音を正しく発音できたか。言い誤りに自ら気づき言い直すことができたか。①【発音】</p> </div>
20	<p>(2)○×ゲームをする。</p> <p>①本児が、出題する単語を二つ決める。</p> <p>②<b>○×が書いてあるカード</b>を、相手に見えないように出題者が引き、○が出たら正しい発音、×が出たら誤った発音で単語を読む。</p> <p>③担当者が○×を答え、合っていたら児童が<b>ノート</b>に○をつける。間違っていたら、録音したものを聴いて確かめる。</p> <p>例)「児童の発音」→『担当者の答』→評価  「ろくがつ」→『○』→ノートに○  「ろくがちゅ」→『×』→ノートに○  「ろくがつ」→『×』→録音を聴いて確かめる</p> <p>④一つの単語につき、5回まで出題する。</p>	<p>・ツとチュを発音するときの舌の動きに違いがあるかどうかを尋ね、少しでも違いがあることに気付いたら褒める。</p> <p>・担当者が○×の判定をして、児童の判断と同じであったら褒める。</p> <p>・後で確認できるように、出題の音声を<b>テープレコーダー</b>で録音する。担当者と児童で判断が異なった場合は、録音を一緒に聴く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ツ音を単語で正しく発音できたか。自分が発音した音の正誤判断が正しくできたか。①【発音・録音】②③【発音・ノート】</p> </div>

28	<p>(3)さかさまことばクイズをする。</p> <p>①出題者と解答者を決める。</p> <p>②出題者が<b>ホワイトボード</b>に答えの言葉をひらがなで書く。(例：つくえ)</p> <p>③ヒント1として、答えについて簡単な説明をする。(例：物を乗せたり、字を書いたりします。)</p> <p>④ヒント2として、答えを逆さまに2回繰り返して言う。(例：えくつ、えくつ)</p> <p>⑤答えがわかったら、解答者が答える。わからないときは、ヒント2を繰り返すよう出題者に伝える。</p> <p>⑥役割を交替して、クイズをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ツ音が入った言葉を自由に答えにするが、思いつかないときは(1)で使ったプリントの中から答えを選ぶ。拗音(小さい「ゃゅょ」)は逆さまに発音することが困難なので、使わないように注意を促す。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ツ音を正しく発音できたか。相手に正しく伝わるように、自分が発音した音の正誤判断を進んで行ったか。①【発音】②③【発音・ノート・表現】</p> </div>
36	<p>6 しりとりかみふうせんをする。</p> <p><b>紙風船</b>を相手に打ち返ししながら、しりとりをする。次の言葉を思いつくまでは、自分で繰り返し打ち続ける。</p> <p>例)「りす」→「す・す・すいか」→「か・かめ」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習後のお楽しみとして行うが、大きな声を出したり、サ行音やツ音を無意識で使ったりする機会でもあるので、うまく言えたときは大いに褒める。不明瞭な発音の、言い直しの場とする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>相手に聞きやすい発音と声の大きさと、しりとりに参加していたか。進んで言い直しをしていたか。①④【発音・表現】</p> </div>
41	<p>7 振り返りをする。</p> <p>(1)<b>ステップアップカード</b>で、どこまで達成できたか確認する。</p> <p>(2)どの活動を一番頑張ったか振り返り、「今日のいちばん」を選んで<b>ノート</b>に<b>シール</b>を貼る。担当者からも、がんばったところにシールをもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カードを見せて、次時の見通しをもたせる。</li> <li>・どの活動を一番頑張ったか選ぶことで、本時全体を振り返り、達成感や次時への意欲付けとなるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分ががんばった活動を、理由をはっきりさせて選ぶことができたか。②【ノート・表現】</p> </div>
44 45	<p>8 終わりのあいさつをする。</p> <p>「<u>しせい</u>をよく<u>しまし</u>ょう。これで、ことばのきょう<u>しつ</u>をおわりに<u>しま</u>す。礼。ありがとうございます。<u>ご</u>ざ<u>い</u>ました。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姿勢よくあいさつできたら、<b>ご褒美シール</b>を貼る。始めのあいさつと比べ、声の大きさなど良くなった点があれば特に褒める。</li> </ul>